

幼稚園と小学校の連携について

——公立幼稚園（東京都）の実態を通しての考察——

○渡邊 ユカリ

（港区立青南幼稚園）

中村 陽一

（秋草学園短期大学）

I. はじめに

幼児の生活は、家庭、地域社会、幼稚園と連続的に営まれている。平成10年12月14日に告示された新しい幼稚園教育要領の内容の中で、改善点の一つに「地域に開かれた幼稚園づくり」を進めることが取り上げられている。近年の社会状況の変化の中で、地域の実情や保護者の要請等を踏まえ、積極的に子育てを支援する役割が求められている。なかでも、小学校以降の生活や学習の基盤を育成し、小学校との円滑な接続を配慮することや、幼稚園全体の教師による協力体制の必要性について新たに触れられている点に日々の保育を通しての実感から特に着目し、問題意識をもった。

そこで、まず幼稚園・小学校の連携に関して、どのような取り組みが行われており、そこでの教師の思いは現実的にどうなのかといった観点から実態を調査し、今後の実践に活かしていきたいと考えた。

II. 調査方法

1. 対象及び期間

- ・東京都内公立幼稚園 50園。
～保育に携わる教師
(38園から回答を得た)

・1998年11月～12月

2. 方法

- ・無記名によるアンケート方式で行った。
(質問内容は結果の箇所に記載)

III. 結果及び考察

回答を得た38園のうち、25園(65.8%)が併設園で、13園が独立園であった。また、全園児数が50名以上の園が22園(57.9%)で、50名未満の園が16園であった。

実際に「幼稚園・小学校の連携を行っていますか」の問いに対して「いいえ」の回答はなく、『ほとんどしていない』と欄外に記述していたものが2園あった。従って、ほぼ全体的に何らかの幼稚園・小学校の連携を行っているといえる(表-I)。

表-I 幼稚園・小学校の連携を行っていますか

「いい」(94.7%)	その他 (5.3%)
-------------	---------------

1. どのような連携(交流)を行っているのか

①行事

- ・作品展(展覧会)～22園(57.9%)
- ・避難訓練～22園(57.9%)
- ・運動会～19園(50.0%)
- ・学芸会～18園(47.4%)
- ・周年行事～6園(15.8%)
- ・音楽会～3園(7.9%)
- ・餅つき～2園(5.3%)
- ・その他：生活科授業交流～1園
作品展、運動会、避難訓練を幼稚園、小学校合同で行っているという回答が多かった。

②日常生活の中で

- ・小学校の施設、設備の使用：校庭～21園(55.3%)
体育館～16園(42.1%) プール～16園(42.1%)
- ・飼育物の世話～9園(23.7%)
- ・一緒に遊ぶ～6園(15.8%)
- ・授業に参加させてもらう～5園(13.2%)
- ・その他：小学生にパソコンを教えてもらう、調理実習で作ったお菓子を分けてもらうなど
授業は、生活科で、小学校側から比較的積極的に交流を考える活動であると思われる(回答の中にコメントが多かった)。

③就学前の年長児の活動として

- ・小学生と一緒に給食を食べる～16園(42.1%)
- ・授業を見学させてもらう～16園(42.1%)
幼稚園からの、小学校への円滑な接続を考えての活動であるが実施されているのは約4割である。

④教員間の連携(交流)

- ・研究授業(幼稚園の教員が小学校へ)
～15園(39.5%)
 - ・職員旅行～13園(34.2%)
 - ・懇親会～13園(34.2%)
 - ・研究保育(小学校の教員が幼稚園へ)9園(23.7%)
 - ・研修会～6園(15.8%)
 - ・スポーツ～3園(7.9%)
- いちばん多い「研究授業」でも全体の4割弱であり、活発とはいえない。

2. 幼稚園・小学校の連携(交流)を行って、よかったと思うことはどのようなことか

①幼児

- ・小学校に親しみをもてた～22園(57.9%)
- ・小学生に親しみをもてた～19園(50.0%)
- ・小学校の進学に期待をもてた～10園(26.3%)
- ・小学校の先生に親しみをもてた～9園(23.7%)

幼稚園側の連携（交流）のねらいとして、幼児に対しては概ね達成されているのではないだろうか。

②教員間

- ・幼稚園、小学校の教員同士の親睦を深められた
～15園(39.5%)
- ・幼稚園、小学校の教員同士の相互理解ができた
～14園(36.8%)
- ・よかったといえるほどのことは特にない～1園
幼児に対して教員間の方は、よかったこととしての捉えは薄い。実感できるほどの実践は少ないと思われる。

3. 幼稚園・小学校の連携（交流）を行って、困っていることはどのようなことか

- ・幼稚園、小学校の教員同士の連絡がとりにくい
～22園(57.9%)
- ・幼稚園、小学校の時間的な都合を合わせにくい
～21園(55.3%)
- ・幼児と小学生が一緒に行事を行うのは難しい
～3園(7.9%)
- ・幼児と小学生が一緒に行う行事が多い
～3園(7.9%)
- ・小学校側が受け入れてくれない
- ・困るほどのことは特にない～各1園
幼稚園側の悩みの多くは、教員同士の連絡がとりにくいことと時間的な都合を合わせにくいことであるといえる。

4. 幼稚園・小学校の連携（交流）について連絡をするのは誰か〔複数回答〕

- ①幼稚園 教師（担任）～21園(55.3%)
教頭～19園(50.0%) 主任～9園(23.7%)
園長～6園(15.8%)
- ②小学校 教頭～21園(55.3%)
教師（担任）～13園(34.2%)
校長～9園(23.7%)
教師（連絡委員）～6園(15.8%)

幼稚園からは主に担任教師と教頭が、小学校からは主に教頭が連絡をしているところが過半数を占めている。

5. これからの幼稚園・小学校の連携（交流）についてどう思うか

- ①子ども同士の活動
- ・もっと積極的に行った方がいい～21園(55.3%)
 - ・積極的にはしたくない～6園(15.8%)
 - ・今後も行う予定はない1園

②行事への参加

- ・もっと積極的に行った方がいい～19園(50.0%)
- ・積極的にはしたくない～9園(23.7%)
- ・今後も行う予定はない1園

③教師間の交流

- ・もっと積極的に行った方がいい～28園(73.7%)
- ・積極的にはしたくない～なし
- ・今後も行う予定はない1園

子ども同士と教員間については、かなりの割合でより積極的な連携の必要性を感じていることがわかる。行事については、各園の現状による思いが出たのではないだろうか。

6. 幼稚園・小学校の連携（交流）について、気になる点や意見等〔自由記述の中から抜粋〕

・異年齢の交流は、子どもにとっても教師にとっても新たな何かを感じることができるので、大切だと思う。繰り返すことや積み重ねることも大切だと思う。何より、私たちが積極的になることだと思う。園長（校長）先生の考えによっても交流の可、不可が変わってくる。

・より深みのある連携のためには、教師間の校種をこえた相互理解が大切である。幼稚園より、小学校の教員は、連携の大切さや必要性をさほど大切と考えていない。まず、幼児教育を理解してもらうことが大切ではないか。

・子どもの交流以前に、教師同士が交流して仲良くなっていくことが、連携の基盤作りになる。

・小学校側（校長、教頭）の幼稚園に対する意識が小学校と幼稚園の連携に大きなポイントになるのではないか。

・学級数の多い学校なので、施設の使用をはじめ他の交流も人数的、時間的に長期的見通しのもとで行わなければならない、難しい。教師間の連絡もとりにくい。

IV. まとめ

幼稚園・小学校の連携の活動の多くは行事的なものであるのが現状である。双方が連携の意味や必要性を互いに理解し合い、特に教師間の交流をもっと積極的に行うべきではないかとの意見が多かった。解決しなければならない課題は各園固有のものと共通のものが存在している。

今回の調査での、回収された用紙一枚一枚に丁寧かつ具体的に記入された幼稚園側の実態を、現場の声として今後につなげていきたい。